

長い日々の必須の祈り

(24時間に一度、唱える)

この祈りを唱える者は起立して神に向かい、最も慈悲深く、

憐あわれみ深き主の慈悲を待ち望むかのように右へ、そして左へ顔を向け、

次いで唱えよ。

すべての名称の主におわし、天界の創造者にまします神よ。最も崇高にして、栄光に

満ち給うあなたの不可視の本質の曙あけぼのなる御方らにより嘆願いたします。私のこの祈りをして、あなたの美から私をさえぎる諸々の暗幕あんまくを焼き尽くす炎となし、あなたの御前の大海へ私を導く光となし給え。

(次に神聖にして崇高なる御方にまします神に嘆願の両手を挙げて唱えよ。)

おお世界の希望の的におわし、人類の最愛なる御方にまします神よ。ご覧のように、私はあなたに向かい、あなた以外の者へのすべての

愛着を捨て、その動きにより全創造界を奮い立たせ給いましたあなたの御綱みつなになすがっております。おおわが主よ、私はあなたの僕しもべであり、あなたの僕しもべの子であります。御心みこころに従うことのみを願い、あなたの望み給うことを果たし、あなたのお喜びにかなう用意の整った私を見そなわせ給え。ご慈悲の大洋とご恩寵おんちょうの星とにより嘆願いたします。この僕しもべを、あなたの御心みこころとお喜びのままにあしらい給え。いかなる表現も賛美もとうてい及ぶことのできないあなたのご威力により誓います。あなたの示し給うものはすべて私の心の望みであり、私の魂の慕したいまつるものであります。おお神よ、わが神よ。私の抱く望みや行いには御目を向け給わず、天と地をあまねく包み込むあなたの御心みこころのみを見そなわせ給え。おお全人類の主よ、あなたの最大名にかけて誓います。私は、あなたの望み給うことのみを望み、あなたの愛し給うもののみを愛します。

*(次にひざまずき、額ひたいを地につけて唱えよ。)

あなたは、あなた以外のいかなる者の叙述も、あなた以外のいかなる者の理解力をも超えて崇高なる御方におわします。

(次に起立して唱えよ。)

おお主よ、私の祈りをして生命の泉となし給え。そしてあなたのご主権の続く限り、私がこの泉により生き、あなたの諸々の世を通じてあなたについて述べるすることができますようなし給え。

*(次に再び嘆願の両手を挙げて唱えよ。)

ご愛情の炎により全世界を燃え立たせ給いました御方よ。あなたとの別離は心と魂を溶かしてしまいます。あなたのもとにあるものを私に拒み給わぬよう、全創造物を征服し給うあなたの御名により嘆願いたします。おお万人ばんにんを支配し給う御方よ。おお、わが主よ、見そなわず通り、この旅人はご威力の天蓋てんがいのもとにあり、ご慈悲の境内けいだいにある最も崇高なる自らの住まいに急いでおり、この罪人つみびとはあなたの御許みゆるしの大洋を求め、この卑いやしき者はご栄光の宮廷きゅうていを求め、この貧しきものはあなたの御豊さの地平線を求めております。御心みこころのままに命めいじ給うご主権はあなたと共にあります。ここに証言いたします。あなたをなし給うことは賛美され、あなたの定め給うことは遵守じ

ゆんしゅされ、そして、あなたはご命令を下すに何ら制約を受け給わぬ御方におわします。

*(次に両手を上げて「最大名」(アラホ・アブハ)を三度唱えよ。)

神聖にして崇高なる御方にまします神の御前に腰をかがめ、両手を

膝ひざにおいて唱えよ。)

おおわが神よ。見そなわず通り、私の精神は、あなたを崇拝するはいし、あなたを記憶し、あなたを賛美したいという切なる思いで両の手足と諸々の器官の中で奮い立ち、あなたのご命令の御口があなたの御言葉の王国と知識の天上において証言したことを、証言しております。おおわが主よ、この状態にて懇願いたします。私が自らの貧しさを示し、あなたのご恩恵と御豊さを賛美し、私の無力なることを宣言し、あなたの御力とご威力とを表わすことができますよう、あなたと共にあるすべてのものを私に与え給え。

*(次に起立し、嘆願の両手を二度挙げて唱えよ。)

全能者におわし、すべてに恩寵おんちょう深き御方にましますあなたの他に神はいませず、初めと終りの命令者にましますあなたの他に神はありません。おお神よ、わが神よ。あなたの御許みゆるしは私を勇気づけ、ご慈悲は私を力づけ、あなたの呼び声は私を目覚めさせ、あなたのご恩寵おんちょうは私を立ち上がらせ、あなたの方へと導きました。さもなければ、どうして私が、あなたのおそばの都みやこの門前に立ち、御心みこころの天上より輝きわたる光へ顔を向けることができましょうか。おおわが主よ、見そなわず通り、この哀あわれな者は、あなたのご恩寵おんちょうの扉をたたいております。また、このはかなき魂は、ご恩恵の御手から永遠の生命の流れを求めております。おおすべての名称の主まします御方よ。命めいずるは常にあなたにあり、御心みこころに身をゆだね、進んで服するは私にあります、おお天の創造者よ。

(次に両手を三度挙げて唱えよ。)

神はすべての偉大なる者を超えて偉大なり。

(次にひざまずき、額ひたいを地につけて唱えよ。)

あなたは、あなたのおそば近く仕える者らの賛美もあなたの御前の天上に昇ることができぬほど高遠におわします。また、自らをあなたに捧げる者らの心の鳥も、決してあなたの門の御扉みとびらに行き着くことはできません。あなたはすべての属性を越えて聖別され、すべての名称を越えて神聖にましますことを証言いたします。あなたの他に神はいませず、あなたは最も崇高なる御方におわし、栄光に満ち給う御方にまします。

(次に座して唱えよ。)

全創造物が証言し、天上の集合が証言し、そして最も高きにある楽園の住民や、彼らを越えて栄光の地平線より荘厳そうごんなる御言葉そのものが証言したことを私もここに証言いたします。あなたは神におわし、あなたの他に神はいまさぬこと、また、現わされた御方は、隠されたる神秘であり、秘蔵の御しるしであり、「存在」の二文字は彼により結びつけられましたことを。そして、彼こそは、最も崇高なる御方の筆によりその名が書き記された御方であり、天上の玉座ぎよくざと地上の主まします神の諸々の書しよに述べられた御方であることを証言いたします。

(次に起立して唱えよ。)

おおすべての存在の主におわし、目に見えるもの、見えぬものすべての所有者にまします主よ。あなたは私の涙と私のもらす溜息ためいきに気づき給う。そして私のうめき声と、泣き声と、心の嘆なげきとを聞き給う。ご威力にかけて申します。私の罪過ざいかは、私があなたへ近づくのを妨げ、私の罪は私をあなたの神聖さの宮廷きゆうていから遠く引き離しております。おおわが主よ、あなたのご愛情は私を豊かにし、あなたとの別離は私を破滅させ、あなたから遠く隔へだてられることは私を消滅させてしまいました。この荒野にしるされたあなたの足跡そくせきにより嘆願いたします。また、この広大なる空間で、あなたが選り給うた者らが発した「ここに我あり、ここに我あり」という言葉により嘆願いたします。さらに、あなたの啓示の息吹いぶきとご出現の曙あけぼのの微風とにより懇願いたします。私が、あなたの美を仰あおぎ見することを許し給い、あなたの書しよに記されたことのすべてを守るよう定め給え。

(次に「最大名」(アラホ・アブハ)を三度唱え、腰をかがめ、両手を膝ひざにおいて唱えよ。)

おおわが神よ、あなたに賛美あれ。あなたは、私があなたを記憶し、賛美するよう私を助け給いました。また、あなたは御しるしの曙あけぼのである御方を私に知らしめ給い、ご主権の前に頭こうべを垂たれ、ご神性の前にひれ伏し、荘厳そうごんなる御口からもれる御言葉を認めさせ給いました。

(次に起立して唱えよ。)

おお神よ、わが神よ。私の背は私の犯した罪の重荷で曲り、私の無思慮むしりよは私を破滅に追いやりました。自らの悪行とあなたのご仁愛じんあいを思うたびに、私の心は私の中で受け、血管を流れる血潮ちしおは煮え返ります。おお世界の希望的にまします御方よ、あなた的美にかけて申します。あなたに向けて顔を上げるにも、私は赤面し、あまりの恥はずかしさに切望の両手をご恩恵の天上に差し伸べることもできません。おおわが神よ、見そなわず通り、私の涙は、あなたを記憶することをささげり、あなた的美徳を称えることを妨げております、おお天上の玉座ぎよくざと地上の主まします御方よ。御国のしるしと、あなたの領土の神秘とにより嘆願いたします。おおすべての存在の主よ、愛し給う者らをご恩恵にふさわしいように扱ひ、ご恩寵おんちょうにかなうまに

しらい給え。おお目に見えるもの、見えぬもの、すべてのものの王におわす御方よ。

(次に「最大名」(アラホ・アブハ)を三度唱え、ひざまずき、額ひたいを地につけて唱えよ。)

あなたに賛美あれ、おお我らの神よ。あなたは、私どもをあなたのおそば近くに引き寄せるものを遣つかわし給い、聖なる書しょと経典を通じて下し給いましたあらゆる良きものを私どもに与え給いました。おおわが主よ、愚おろかな空想、むなしい妄想の軍勢ぐんぜいより私どもを守り給うよう嘆願いたします。まことにあなたは強大なる御方におわし、すべてを知り給う御方にまします。

(次に頭を上げて座して唱えよ。)

おおわが神よ、あなたの選び給うた者らが証言いたしましたことを私もここに証言いたします。また、最も高きにある楽園の住民たちと、あなたの強大なる玉座ぎよくざを取り囲む者が認めたものを私もここに認めます。天と地の王国はすべてあなたのものであります、おお、諸々の世界の主なる御方よ。

—Babá'u'lláh